

学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業
舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演 『講談』）
4年生講談「水戸黄門」の一席

七つ星
校訓 「志高く」



「本物」から学ぶこと

校長 前田 倍成

6月24日（月）、本校において、文化庁が主催する「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 舞台芸術等総合支援事業」の学校巡回公演を開催することができました。

今回は「講談」の講演です。古くは講釈（こうしゃく）といい、ルーツは奈良、平安の頃の仏教説法にまで遡るといいますが、現在一般に知られている講談の様式は、食うに困った浪人などが、辻説法のように「太平記」を面白おかしく読んで聞かせて投げ銭を請うたことがもとと言われているそうです(<https://www.geidankyo.or.jp>)。

最近では、神田伯山という講談師が人気を博していることはご存じの方も多くはないでしょうか。ただ、子どもたちにとっても、私たち大人にとっても、講談が馴染みのある伝統芸能だという感覚は希薄かなというのが正直なところです。



旭堂南海「わらしべ長者」

神田堇花「西遊記」

神田山緑「耳なし芳一」

しかしながら、やはり『本物は違う』のです。うまく書けませんが、長年受け継がれ、培われてきた伝統の芸、講談師のみなさんがもつ高い技術が、観る者、聴く者をその世界へと見事に引き込むのです。私がしゃべったぐらいではそうはいきません。過日、これも本校体育館で行われた「石川県スクールシアター」オペレッタ劇団ともしびのみなさんの見事な演技に、たくさん子どもたちが引き込まれ、その姿に憧れたことは学校HPの「今日一枚」でも紹介したとおりです。

「一流のものは、実際に見る者に衝撃や感動を与え、見た者の心により印象深く刻まれる」と言われます。この事業目的にも「トップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場をつくる」と謳われています。学校でも、学習活動では(そういつもできるわけではないのですが)、地域の方々にお力添えをいただいたり、今回のように外部機関とつながったりしながら、子どもたちが「本物」、「実物」に出合い、自らの興味関心を高め、主体的に学習活動を進められるよう工夫することはしばしばあります。



今回の講談だけでなく、先の演劇、また被災地支援で来ていただいたアスリートの方々とも接する機会がありました。あらゆるスポーツ、芸術等の領域でその道を極めたみなさん、また企業がもつ先端技術、地域で大切にされている文化遺産なども含めた、すなわち「本物」「実物」がもつ技術や感性と、子どもそれぞれの感性とがなにがしか響き合う中で、子どもたちが、教科書や学校のフォーマルな学習にはない、無自覚かもしれないけれどもすてきな学びを習得していることを信じます。

講談師のみなさんはじめ、関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。



5年生講談「義経・弁慶出会い」の一席



6年生講談「三方ヶ原の合戦」の一席

— 受賞、おめでとうございます —

【第21回石川県小学生学年別柔道大会】

2年生軽量級 優勝 裏 凌乃介
 4年生軽量級 準優勝 山崎 志真
 第3位 加藤 元輝
 4年生重量級 優勝 裏 ほたる

※左の4名と、4年生 細川 瑛翔
 5年生 中塚 晴太
 6名が、県指定強化選手に選出されました

